

津と大紀町

水道復旧は12日めど

県災害対策本部員会議 自主避難者なお452人

県災害対策本部員会議（本部長・鈴木英敬知事）は八日、県庁で開き、台風12号の被害状況について各部局が報告した。断水している地域への対応で、県環境森林部は津市、大紀町では十二日、御浜町では今週中をめどに復旧できるとの見通しを示した。同日午後、のぶら下がり会見で、鈴木知事は紀宝町も二、三日後

停電戸数は紀宝町が最も多く、七日午前九時現在で一千八百六十戸。断水も続いており、同町の五千四百六十七戸をはじめ熊野市の二千六百二十戸、御浜町の二百九十六戸、津市の二百六十戸、大紀町の二十戸で未復旧となっている。熊野市は地域ごとに異なる系統の上水道を使っているため、順次回復させたいとしている。

土砂で道路が寸断され、熊野市と紀宝町の二つの集落が孤立している問題では、三―四週間を要するとの説明があったが、同日午後ののぶら下がり会見で鈴木知事は「（熊野市井戸町の）大馬地区は最速で九月十一日に通行可能になる。

（紀宝町の）浅里地区は短縮できる見込み」と語った。

被災者の雇用促進住宅へ

の入居については、熊野市井戸町の松ノ木住宅に六十戸の空きがあり、八日から熊野市、御浜町、紀宝町などが協議を開始。入居時期については市町との相談の上、現地に対応するとした。

また県教育委員会は、木本高校や紀南高校、特別支援学校伊賀つばさ学園の復旧状況を報告。木本高校では十二日からの授業再開に向け、消毒作業などをして

南高校は再開時期のめどが立っていない。伊賀つばさ学園では、八日から午前の授業を再開。十二日から平常授業を実施するとした。

会議の最後で、鈴木知事は各部局が連携し、復旧支援に全力を挙げるよう指示。また「いつ雨が降ってくるかわからない。二次災害防止を念頭に対応を」と述べ、土砂崩れなどによる二次災害に警戒するよう呼び掛けた。

（森川静香）